

ファンドレイジング・日本2019

「困りごと」と「あそび」がつなぐ、
社会参加促進の仕組み

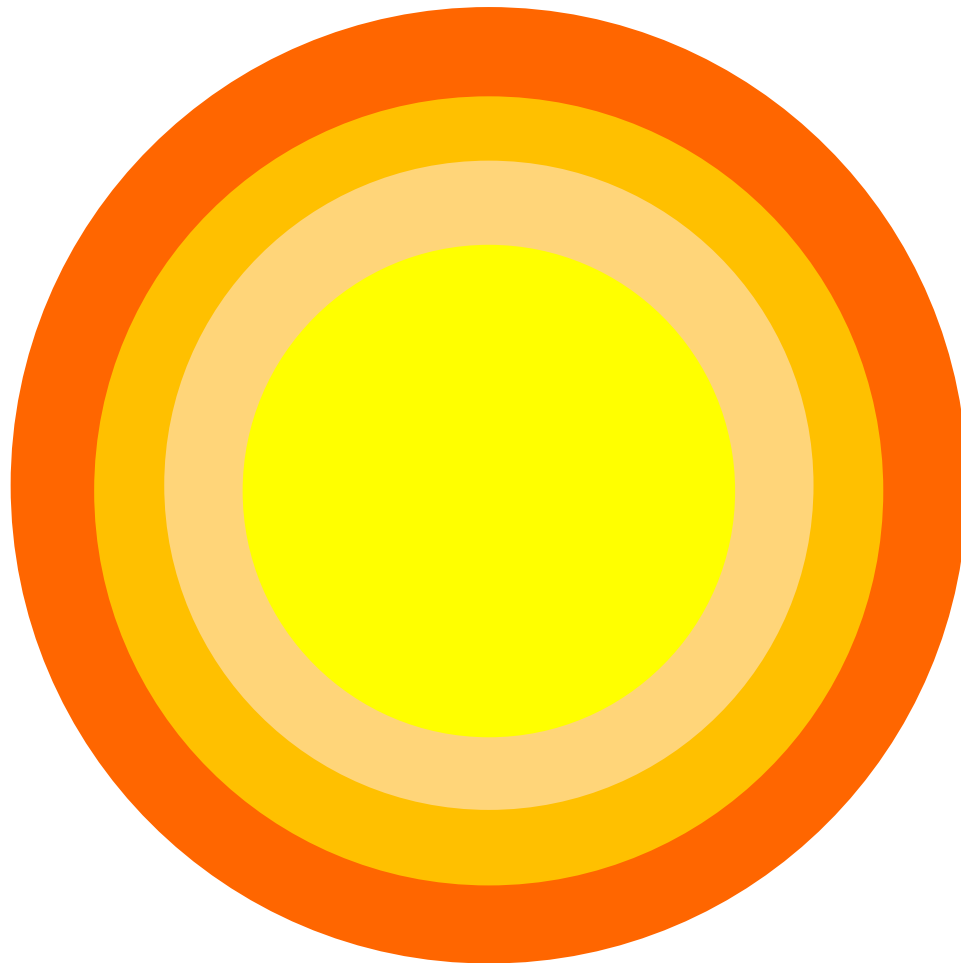
参加を促進する組織に なるための5つのステップ



2019年9月15日

認定NPO法人アカツキ 代表理事／職員 永田 賢介

参加の輪は同心円上に



職員



理事



会員



ボランティア

□ □ □ □

① まずは、団体内部で話し合おう！



① まずは、団体内部で話し合おう！

夢は？現実は？誰と？いつ頃？

目指す未来（ビジョン）と
そこに至る道のり（プロセス）は
一致している

② 次に、直接見て学ぼう！



② 次に、直接見て学ぼう！

資料は？仕組みは？

振る舞いは？言葉遣いは？

「参与観察」から見えてくることがある
重要な工夫ほど水面下に
(冰山モデルとhave/do/be)

③ それから、言葉にしてみよう！



③ それから、言葉にしてみよう！

書いた？話した？見た？聞いた？

「然るべき人」の言葉が力を持つ
いろいろな言葉を一つの場所で
一つの言葉をいろいろな角度から

④ やっぱり、仕組みをつくろう！



④ やっぱり、仕組みをつくろう！

チェックリスト？マニュアル？

クレド？記録？本？

仕組みは「目的」じゃないけれど
人を「手段」にしないために
価値観を資料に埋め込んでいく

⑤ 最後に、振り返りこそ皆で！



⑤ 最後に、振り返りこそ皆で！

何が起きた？起きなかった？

いつ起こった？誰が変化した？

何を感じていた？次はどうしたい？

「その時」は精一杯だからこそ
時間差で見つかる宝も多い

まとめると

(参加促進のために)

立ち止まる
ことから始めよう